

東京大学大学院新領域創成科学研究科
環境学専攻社会文化環境コース

平成 17 年度

修士論文

都市内公園の影響領域に関する研究
Study of the Area characterized by the Urban Park

2006 年 1 月提出

指導教員 大野 秀敏 教授

36720 小林 国弘


目次

序	1
研究の背景	
研究の目的	
論文の構成	
1. 都市における公園の働き	4
1.1 都市におけるオープンスペースの歴史	
1.2 公園が周辺都市に及ぼす影響とは	
2. 東京の公園	10
東京の公園の分布	
3. 公園と周辺都市空間の関係性	19
3.1 調査方法	
3.2 公園と幹線道路の関係	
3.3 公園の視覚領域の類型化	
4. 公園と周辺都市空間の関係性	26
4.1 分析方法	
4.2 新宿御苑	
4.3 代々木公園	
4.4 青山霊園	
4.5 有栖川公園	
4.6 自然教育園	
4.7 芝公園	
4.8 小石川植物園	
4.9 六義園	
4.10 清澄庭園	
4.11 猿江公園	
4.12 木場公園	
4.13 考察	
5. 公園に隣接する都市空間への提案	88
参考文献	

研究の背景

東京の航空写真 (fig. 0.1) を眺めてまず目に留まるのは、都市化された中に島のように入在する公園の緑だろう。しかし実際に都市の中を移動しているときに、そうした大きな公園を目にすることはあまりないのでないか。私達は公園を俯瞰による全体像ではなく、水平な視線により公園の境界を見ている。公園の境界が塀で囲われ、街並みの景観に配慮していないことは今までにも指摘されてきた^(*) (fig. 0.2) が、さらに公園に隣接する都市空間にも問題があるのではないか。

都市の中で大きな面積を占めている公園は、内部に良い環境を作り出すことはもちろんであるが、公園に隣接する都市空間に対しても良い影響を与えるべきである。



(fig. 0.1)
東京の航空写真



(fig. 0.2)
芦原の挙げた公園の塀
(上から六義園、小石川植物園)

研究の目的

以上のことから本論の目的として以下の三つを挙げる。

- ・公園の閉鎖性の原因を明らかにする。
- ・公園が周辺都市空間に与える影響について分析する。
- ・公園が周辺都市空間と関係をもつための方策を探す。

(*) 「街並みの美学」 芦原義信 岩波書店

論文の構成

本論では、文献による調査により研究の方向性を明確にした後、フィールドワークでの調査による分析を行うというかたちをとる。

以下に詳しい本論の構成を述べ、フローチャートにより図式化した。

第一章では、都市における公園の働きについて整理する。都市における公園の歴史の変遷について知識を得、公園が周辺環境に与える影響を明らかにする。本論文で扱う公園の価値について明確にすることを目的とする。

第二章では、東京の公園の分布特性と立地の地理的な特徴を明らかにする。それにより次章での調査地とする公園を選定する。

第三章では、公園の樹木が見える場所をフィールドワークにより調査し、公園の視覚領域として図示した後、その分布の形態により類型化を行った。

第四章では、公園と周辺都市空間の関係性について、公園の閉鎖性の二つの側面について指摘した後、それぞれについてより詳細な分析として、視覚領域の境界と、公園の敷地境界付近の調査・分析を行った。

五章で結論として、それまでの分析をもとに東京における公園と隣接する都市空間との関係について述べ、公園の環境の良さを利用するための都市空間像を提示する。

